

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	ファミリア小坂		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716-1		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigvsvocd=2192800072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は国道41号線沿いで利便性に優れています。施設周辺も自然環境に恵まれ利用者様のこれまでの住環境と変わりなく、いぜんのくらしのようにすごしていただくことができます。施設敷地内には畑もあり、四季折々の野菜や果物など楽しんで頂くことができます。災害時には一時避難場所指定区になっており食料・水等の備蓄もあり地域のみな様に、災害発生時にご利用していただけるよう対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二つのユニットの中心に広い共有空間がある。ユニット間の仕切りはないので、利用者同士が交流しやすい環境である。職員間のチームワークも良く、多彩な能力を持った職員が工夫しながら、レクリエーションで利用者を楽しませている。利用者の表情も明るく、声掛けすると明るく答えている。また、利用者の写真でスライドショーを作るなど、家族にも喜ばれている。職員は地元出身者が多く、利用者との会話も飛驒弁で温かみを感じられる。管理者は、職員の資質向上のため、様々な内部研修を行っており、職員もそれに応じて、しっかりとレポートの提出を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念『地域に根ざす優しさ安らぎ信頼』は職員の名札・玄関等に明記しており、常に意識し共有し介護サービスの提供に努めている	理念を職員の目につき易い所に掲示したり、名札にも記載するなど、日々、意識しながら理念に沿った支援の実践に努めている。地元出身の職員も多く、地域の情報を把握しながら信頼関係を築き、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスなど感染防止の観点から施設への訪問は控えているが、毎月広報誌を回覧していただき、施設の様子をお伝えしている	自治会に加入し、毎月、事業所が発行する通信「おたっしや倶楽部」は、回覧版にて見られている。福祉相談の窓口的役割を担い、災害時の一時避難所にもなっている。地域の祭りには獅子が訪問するなど、昔ながらの繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部サポーター要請は感染防止のためで来ていない。認知症サポーターの有資格者職員が活動を担っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催になっているが、感染防止上現在は開催していない為、地域役員・ご家族全員に入所状況・ヒヤリ集計・検討議題など報告のため、2カ月ごとに送付している	現在は、書面開催となっている。会議資料は行政は勿論、全利用者家族と地域の役員にも郵送している。玄関に置き、誰でも目にする事が出来るようにしている。家族が遠方に住んでいるケースも多く、コロナ禍前も、参加が難しい状況であった。	運営推進会議の重要ポイントは、関係者との意見交換である。現在は、書面での開催となっているが、今後、感染対策を講じながら、対面での意見交換を工夫し、会議の活性化に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課の方に報告・相談など指導していただいている。コロナ対応等は厚生省・県・市よりメール等で随時連絡していただいている	国、県、市から、コロナ感染予防対策の情報がメールで届いている。基本3か月に1回の頻度で、事業所のケアマネジャーがケア会議に参加し、連携を取っている。市とは、日常的に連携しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施設内研修で身体拘束の弊害等の理解をし、しない努力・工夫をしている。やむを得ずする場合は、経過観察・再検討記録を付け廃止に向け見直しをしている。3カ月毎に管理者を含め適正化委員会を開催し手いる	3か月毎に身体拘束適正化委員会を開き、職員には身体拘束の弊害について理解を促している。やむを得ず拘束が必要な場合は、家族に説明し同意を得た上で経過観察を行っている。事業所内での研修では全職員がレポート提出を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修でどのような行為が虐待に該当するかを度々学習・周知し虐待に当たらないケアを心がけ、更に虐待防止委員会を設け防止・早期発見に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に成年後見人制度が活用できるよう、学習する機会を設けている。今年度外部研修あり参加した。小規模多機能で1月より保佐人を付けた方おられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の方針・内容を十分に説明し、利用者や家族が理解し納得されたうえで契約を交わしている 家族の方でも在宅の生活では困っておられたが、施設への入所は罪悪感のある方もおられ傾聴するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防のため面会の機会は減っているが、ケアプラン更新時など適宜連絡を取り、入居者様の要望を伝えたり、ご家族の希望に添えるよう努力している	毎月、事業所の行事や、利用者の活動の様子等を通信で発信しており、担当職員が写真にコメントを添えて送っている。運営推進会議の資料と共に、ヒヤリ・事故報告、新型コロナウイルス感染状況についても真摯に報告し、経過や改善策について文書にて配布している。その都度、改善に繋がったことについて 家族の評価を得ることができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在は職員会議が全体でできない グループホーム内で出た問題・意見をミーティング開催し施設長・管理者に伝え、問題解決につながるよう反映できるよう努めている	管理者、ケアマネも現場に入っており、職員は困ったことや問題点を、その場で聴くことができている。職員の個別面談は年2回行っており、資格取得を働きかけている。外国人実習生には寮を提供し、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事評価の際、管理者がが個々に面談し、職員が努力した事・やりがいを把握し、向上心を持って働けるよう、代表者に報告し給与水準を上げる・労働時間等条件の整備に努めるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員には研修ファイルを作成し個々の対応また各自の経験・力量を踏まえ指導している 外での研修参加が困難であるため施設内研修は毎月レポートを提出することで確実に身に着け技術向上するよう取り組んでいる web利用の研修もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流はあまりできていない 同法人内の交流は、看護職・リハビリ職などの意見交換し合い、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して施設で生活できるよう、入所前に情報や要望を聞き、安心して生活していただくため信頼関係を築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心して施設に預けることができるよう、入所前訪問しに家族の情報や要望を聞き悩みや不安なことに耳を傾け、信頼関係を気づくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人・家族の必要としている支援を見極め、当施設だけでなく必要であれば他のサービス利用も念頭に置いて対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人格・人間性等に配慮し介護者・被介護者という関係を越え、家族同様に支えられるよう、より良い関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支援しているという気持ちで、ご家族の意見・要望を伺いながら、本人・ご家族・職員のより良い関係づくりに努めている また居室担当が様子などお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため、ドライブでは馴染みある場所を車窓より眺めるのみだったが、昔話が出て楽しんで頂けた 地元の理容室・美容室に毎月出張して頂いている 以前のように交流できる日を心待ちにしている	面会は制限を設けた上で、パーティーションで囲った玄関スペースで実施している。また、玄関先の日当たりの良いところにベンチを置き、面会の場にしたり、訪問理容師による散髪を行っている。地元の祭りの際には獅子舞の訪問があり、馴染みの関係を継続できている。	玄関のパーティーションを使った面会は、家族から「声が聞き取りにくい」との意見がある。家族の要望に応えられるよう、面会方法の工夫に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係や個性を把握し日々穏やかに過ごせるよう、食事席など配慮している 互いに良好な関係を築けるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院・他施設転居の際は、環境が変化しても安心して暮らして頂けるよう、介護・看護サマリーを同意の上情報提供させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日々の生活から会話等で想いを組み取り本人にとり何が良いのかを前提に話し合い検討しケアプランに盛り込んでいる	利用者とは会話する中で、新たな情報や利用者の思いを業務日誌に記録しカンファレンスで検討している。利用者のやりたい事を聞き、塗り絵や折り紙をしたり、興味のあるような新聞記事を読み聞かせするなど、希望に沿ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の関わりの中で、折に触れ在宅時の生活環境・暮らし方などをお聞きすることにより生活歴等を把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力に応じ、役割を持っていただいている 日誌等で職員が情報を共有し把握し、心地よく過ごして頂けるよう声掛け・傾聴するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ感染予防のため参加していただけない為、電話等でご家族に要望・意向等確認後、カンファレンスを実施し様々な角度からの意見交換を行いケアプランを作成し統一したケアを実施し、モニタリングにてケア見直し・実施状況を確認している	面会時や電話の際に、家族から意見や要望を聞いている。医師、看護師等、多職種からも意見を聞き、介護計画の見直しに活かしている。面会時に、介護計画を手渡し説明を行っているが、訪問が難しい家族には、介護計画書を郵送している。	介護計画書は、現在、郵送しているが、家族から説明が欲しいとの意見がある。今後、コロナの感染状況を見ながら、カンファレンスへの家族参加や、計画書の説明方法を検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様との会話から様子・感情・発言なども記入できるよう努めている 職員間での情報共有、ケアの実施・見直しなどに生かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の現在の状況・要望等ニュースに対応できるよう検討し、柔軟な支援・サービスができるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防のため、地域との交流は出来ないが、毎月整髪には地元の理容師・美容師の方が訪問してくれる 包括支援センター・地域のケアマネ・民生委員の方々と支援・協力が入所相談などに繋がられている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医に家族と連携し定期的に受診し、変化に対しては必要な医療が受けられるよう連携している 有料ではあるが送迎・受診付き添い支援もしている 施設医は月2回の訪問診療で対応している	かかりつけ医の選択について、入居時に説明している。従前の主治医継続の場合は、家族の付き添いを基本としている。緊急時や家族の都合がつかない場合は、職員や看護師が付き添っている。月2回協力医の往診があり、歯科衛生士による口腔ケアも定期的を受けている。家族の希望で歯科医受診等、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定値・日中の体調の変化を見逃さず看護職に報告・相談し受診に繋げ、適切な処置・対応ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入退院時の情報交換は看護・介護サマリーでしている 医療機関から入院者の情報を頂けるため、退院時にALDの低下がある場合などは、退院前訪問をし様子を把握し、検討会を開催し対応できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と看護師により健康管理はしているが重度化・終末期の場合、他施設へ移転も含め家族の意向を確認・支援している 入所契約時【重度化した場合した場合の指針】により説明し、家族の意向を確認し望まれる支援をしている	看取りは行っていないが、入居時に「重度化した場合の指針」を家族に説明している。家族からは、できる限り事業所で見てもらいたいとの要望があり、協力医療機関で入院ができることも説明している。状態の変化があった時に家族と話し合い、本人、家族の思いを受け止め、家族の希望で在宅に戻ったケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受けている また職員研修で看護師より緊急時の対応を学び、実践に役立てている（4年度11月研修）		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の災害時の避難訓練、消火訓練、通報訓練をしている 今期11月は夜間の火災発生を想定し署員の指導を受けた。3月には地震の建物倒壊を想定し訓練する予定である	定期的に避難訓練を実施している。消防署の指導で11月は夜間の火災想定での訓練を行い、3月には地震災害訓練を予定している。昨年の課題でもあった食品や水の消費期限等、備蓄品の確認を行っている。職員は緊急脱出用スロープを降りる訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ドア・カーテンの開閉には常に注意を払っている 排泄や着替えなどはプライバシーを損ねない対応・声掛けを心がけている 排泄の声掛けは周りに気を付けての声掛けを心がけている	居室の表札は、個人の特定ができないよう下の名前のみを表記している。汚れた下着を隠す人もあることから、利用者の思いを理解し、蓋つきのバケツを部屋に置いている。浴室の脱衣所にあるトイレは、プライバシーに配慮し衝立やカーテンで仕切っている。	
37	※	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを聞き取り希望に添えるよう支援できることがあれば対応している 業務の都合上対応できない場合もあるが、要望があれば可・不可にかかわらず職員間で共有している		
38	※	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、否定はしない支援を心がけている 体調に留意しどのように過ごしたかを聞き取り、希望に添える支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の乱れや汚れ等気づき声掛けするように心がけている 自分で着替えができる方は選んでいただいている 化粧道具を持っておられる方は自分で化粧していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付け・湯飲み洗い・台拭きなどできるだけ多くの利用者の方に、お手伝いしていただき、できない所はお手伝いさせていただいている。味噌汁は材料切・味付け・味見までやっていただき、楽しんで参加していただいている	食材は配食サービスを利用し、1階の調理場で調理師が食事作りをしている。毎週水曜日には、利用者と職員と一緒に味噌汁を作ったり、食器を洗う等、利用者が役割をもって関わっている。畑で採れた野菜を利用したり、ホットケーキなどのおやつ作りも行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・一口大・きざみ・ペーストなど個々の嚥下・咀嚼力に合わせた食事を提供し、無理なくバランスよく栄養が摂取できるよう支援している 水分摂取量など個人記録に記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後口腔ケアを自分でできるところまではやっていただいた後、食物残渣除去など支援している 歯科医により口腔内の点検、歯科衛生士の個々の状態に合わせたケアのポイント指導により清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により排泄パターン・状態を把握し声掛けにて自立支援パットの減数に取り組んでいる 訴えにて介助の方、自立の方など個々に添った支援をしている	トイレでの排泄を習慣化できるよう、排泄パターンを把握し声かけと誘導で支援し、排泄用品の減数にも取り組んでいる。夜間は、ポータブルトイレを使用する人もある。夜間、頻回にトイレに行く利用者もあるが、眠剤は使用せず根気よく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考察し水分・乳酸飲料の摂取やレクリエーション体操などの運動により自然な排泄を促す他に、排便リズムを把握し医師の指導のもと内服薬・座薬の使用にて便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	立位の安定している方は個浴にて週2回入浴されている 一人一人の希望の時間に入っていたいではないが午前入浴は喜ばれる チェア浴も週2回安心してゆったり入浴されている 自分でできる事は見守りさせて頂いている	脱衣室が広く、介助がし易い。入浴は週2回を基本とし、利用者の気分や状態により柔軟に対応している。浴槽は一般個浴とチェア浴があり、状態に合わせて安全に対応している。同性介助は希望に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離・臥床介助の方は個々の状態に応じ昼寝など休んで頂いている 自分で休まれる方は好きな時間・休みたいタイミングでされている 夜間は安心して休めるよう支援している 加湿器で湿度調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はほぼ一包化し、名入りのケースにて管理し、服薬確認をしている 状況により医師・看護師に相談し指示を受け症状の変化に対応している 受診し処方してもらうときもあり		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味嗜好に合わせ楽しんで頂き、季節のイベントには行事計画をし、四季折々を楽しんで頂いている 夕食には安全に配慮しながら味噌汁作りをして頂き、役割を担って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため自由な出入りは今のところ遠慮して頂いている 病院受診・墓参りなど家族の協力ですて頂く方もおり外出支援に繋げている 暖かい日には散歩、桜・花桃・紅葉ドライブも車窓より楽しんで頂いている	昨年の取り組み課題でもあった散歩やドライブは、徐々に増やしている。まだ、コロナが収束したわけではないが、今後も「withコロナ」で工夫をしながら、外出の機会を増やしていく予定である。外部医療機関への受診や、墓参りは家族の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出が制限されているため、お金を使う機会は減っている 施設内の自販機でジュースなどを購入される方もいる お金を持つことで安心感を持たれる方もいるため、個々に合わせた対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはは常時している 自分持ちの携帯電話で家族とやり取りされている方もおられる 手紙のやり取りはご本人に書いていただき思いを伝えられる web面会も対応している 正月は居室担当者がそれぞれに年賀状を渡したり家族からの物もあり、とても喜んでおられた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に合わせ飾り付けをしている 食堂などは相性に合わせた組み合わせにするよう考慮している 室温・湿度には気を付け、心地よく過ごして頂けるようにしている 動線上は安全対策のため物を置かないよう安全対策に気を付けている	2ユニット間に共用スペースがあるが、仕切りがなく、一つの広い空間となっている。ソファが色々な向きに置かれ、気の合う利用者同士が好きな場所で談笑している。塗り絵や作品作り、テレビを見るなど、自由に過ごすことができる。窓から畑の作物の生育状況も見える。壁には様々な作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が近いため独歩の方はご自分で戻れることもあるが、仲の良い方とゲームをして過ごされたり談笑されたりして頂き、ソファで個別にCWIに相談事をしたり、横になりくつろがれる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたものをお持ちいただき、馴染みの物に囲まれ心地よく過ごしていただくようにしている 家族写真など飾っておられる方もいる 居室は清潔かつ安全なスペースになるよう工夫し対策している	ベッド、クローゼットが備え付けられており、使い慣れた物を自由に持ち込むことができる。部屋の寸法を図り、何をどこに置くか、要望を出された家族もある。また、ベッドカバーや座布団カバー等を自分で編み、自分の部屋らしく工夫している人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を活用し安全に移動できるように支援している 歩行器使用によりご自分でトイレに行くことも出来ている 動線上の安全対策に配慮している		